

「きょういく」と「きょうよう」

松浦 純子

今年の初めごろ友だちと食事をしていた時、「年を取ってくると必要になるのは、『きょういく』と『きょうよう』だっていうこと知っていた？」と聞かれた。これを聞いて、若いころもっとたくさん勉強しておくことが必要だったんだ。教育は仕事柄関わってきたから少しは他の人より経験があるかもしれない。しかし、教養はというと果たしてどうだったか、と考えを巡らせて、もう手遅れだ！と不安げな顔をした（らしい）時、『きょういく』とは教育ではなく、今日行くところがあるということ、そして『きょうよう』とは教養ではなく、今日用事があるということ」だと教えてくれた。これらが無くなると生活が充実せず好ましくないのは理解できる。過去の事ではなく、これからのことだと分かったとたんに、まだまだ大丈夫という気持ちになった。

それにしても、なんの的を得たことばではないか、それを友だちに伝えた人は天才に違いないと思ったが、ネットを見ると十数年前にはすでに言われていたらしいことが分かった。このことばを聞いてから、一日一回は必ず外出や用事と言えることをしようと思い、前の晩に翌日の行動を確認して寝ることにした。

仕事で外出する時は行くことも用事も両方とも同時に達成できる。しかし、夏休みなど絶対にこの日にしなくてはいけないという用事がない日は、人をだめにするのではないかと不安になり、無理やり外出先と用事を作ることになる。特に今年の夏みたいに猛暑続きで、「熱中症にならないように外出は控えてください」などと言われると、ますます外出を先延ばししたくなる。でも、決めた以上は実行しようと思い、手っ取り早い外出先と用事として図書館を見つけた。「困った時の図書館」である。

夏休みの朝、開店と同時にスーパーに行くと、高齢の男性たちが一人で買い物をしているのをよく見かけた。理由を聞きたかったが、これも『きょういく』と『きょうよう』を実行している姿だと考えることにした。